



## 食品安全委員会と欧州食品安全機関(EFSA)との定期会合、東京で開催

2012年11月28日、食品安全委員会の会議室において、食品安全委員会と欧州食品安全機関(EFSA)との定期会合が行われ、今後も継続的な協力関係を維持・発展させることを確認しました。



ホーム>意見交換等>意見交換会、指導者育成講座及び関係団体等との懇談会の開催案内及び実績  
<http://www.fsc.go.jp/fscis/meetingMaterial/show/kai20121128ik1>

### ともにさらなる発展へ向けて

EFSAからはキャサリン・ジェスレイン・ランネール長官をはじめ3名が出席し、食品安全委員会の熊谷進委員長をはじめ各委員及び事務局との間で、活発な意見交換と将来に向けての話合いが行われました。両機関は2009年12月に、お互いの情報交換や協力関係を発展させることを目的とした協力文書(覚書)を締結しており、今回の会合はその推進の一環として開催されたものです。また、昨年はEFSAが設立10周年を迎え、本年は食品安全委員会が設立10周年を迎えるというタイミングでの開催となりました。

午前中は、「これまでの活動と今後の課題」と題したセッションが公開で行われ、ランネール長官及び熊谷委員長がそれぞれの機関の活動状況等について発表しました。午後からは、協力関係の発展方針に加え、リスク評価や組織運営等の個別事項についても、発表と意見交換が行われました。ランネール長官は会合の最後に、真に有意義な会議であったと挨拶し、両機関の協力関係をさらに発展させたいとの意欲を示しました。次回の定期会合は、本年秋頃開催される予定です。



ランネールEFSA長官(左)と熊谷委員長(右)



会議風景



## 食品安全委員会セミナー(アルミニウム)報告

2012年10月4日、「アルミニウムの健康影響と国際的な動向について」をテーマにセミナーを開催しました。



ホーム>意見交換等>意見交換会、指導者育成講座及び関係団体等との懇談会の開催案内及び実績  
<http://www.fsc.go.jp/fscis/meetingMaterial/show/kai20121004ik1>

### 国内外の最新の情報からアルミニウムを知る

食品添加物や容器などに広く利用されるアルミニウムの健康影響に関するセミナーを開催し、参加者のみなさんに情報提供を行いました。

コーディネーターを食品安全委員会化学物質・汚染物質専門調査会、器具・容器包装専門調査会の広瀬明彦専門委員が務め、海外からはカナダのマギル大学のジュード・ポアリエ博士及び英国食品基準庁のダイアン・ベンフォード博士がアルミニウムの毒性に関する調査研究や国際的な安全性の評価について講演。さらに食品安全委員会添加物専門調査会の江馬眞専門委員及び神戸大学医学研究科の入野康宏博士が、アルミニウムに関して人体に及ぼす影響や国内外で行われている最新の研究動向について講演しました。また、後半は会場に集まった参加者と質疑応答や意見交換などが活発に行われました。

セミナーで使われたスライドや議事録は上記のURLでご覧いただけます。



講演者のみなさん



会場風景